

西脇東中学校と黒田庄中学校の統合に関する地域意向調査

【資料編】

地域意向調査の回答に当たって、この資料をご一読ください。この資料は、学校学習環境規模適正化の取組み、中学校の統合の必要性などについてまとめたものです。なお、この資料は回答に当たって返送の必要はありません。

【現状】両校区の中学校入学者数の推移

西脇東中学校区、黒田庄中学校区とも人口が急激に減少しているため、両校とも現状で1クラス(単学級)となっている学年が生じています。

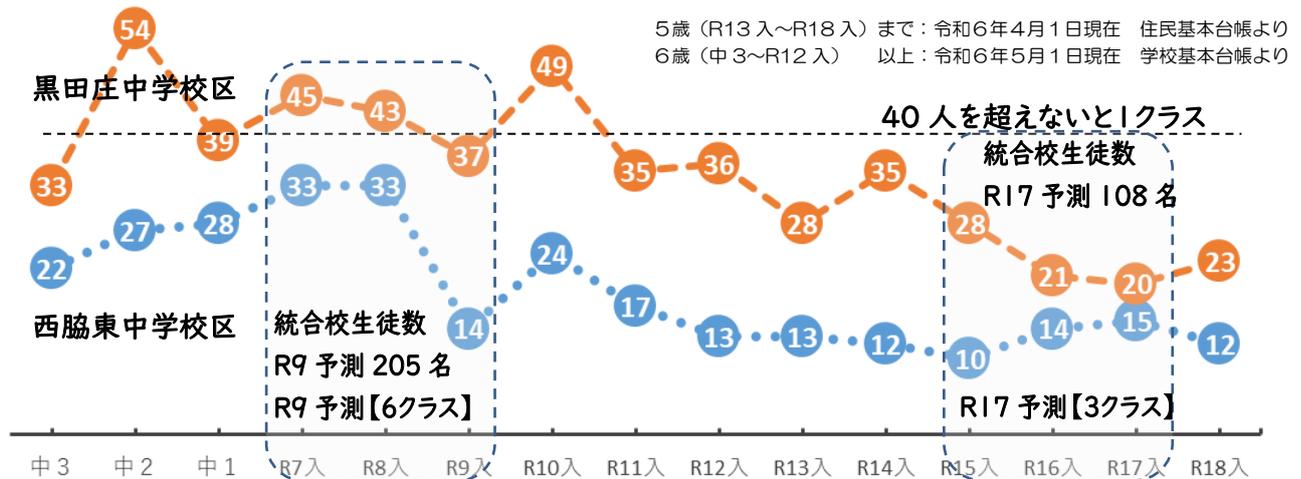


図. 西脇東中学校(下段)と黒田庄中学校(上段)に入学する子どもの数

急激な年少人口の減少により、学級数の確保が難しくなった結果

問題発生

■教員定数が少なくなり、加配措置がなければ教員数が不足する可能性

⇒一部科目において、生徒が必要なときに、質問対応等の教育支援を受けられない etc

■年少人口を市内中学校区で見ると大きな偏りが生じ、学校間で教育環境に差異が生ずる

⇒両校区では小規模化が進行する(⇔市内他校区では、2クラス以上の編成が当面可能)

⇒一定の集団での実施が効果的な学校行事や教育環境へのマイナス面の影響 etc

西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画の取組み

西脇市教育委員会では、教育機会の均等、学習環境の整備、教育効果の向上、教育の質の充実を図ることを目的とし、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画を策定しました。

望ましい
教育環境

子ども達のより良い教育環境の実現のためには、

『一定の学習集団・生活集団の確保』が必要

中学校の適正規模⇒『1学年2クラス以上を確保』

単学級化の解消、将来の単学級化を避けるため

R9年度 西脇東中学校と黒田庄中学校を統合

※詳細は市ホームページをご覧ください。



※活用する施設(校舎)を決定次第、PTAや地域住民、学校関係者等から構成される開校準備会議を速やかに設置し、R9年度の統合校開校に向けて、具体的な検討・準備を進めます。

1 統合校の既存施設活用について

⇒統合校は、西脇東中学校か黒田庄中学校のどちらかの校舎を活用することとしています。

(1) 活用する既存施設(校舎)について

	西脇東中学校	黒田庄中学校
校舎 築年	平成 5 年(1993 年)築	昭和 58 年(1983 年)築
校舎 延床面積	3,110 m ² (当初 6 クラス想定)	4,242 m ² (当初 12 クラス想定)
校舎 教室数	普通教室 8 室 ^{※1} /特別教室 7 室	普通教室 14 室/特別教室 9 室
体育館 築年	平成 22 年(2010 年)築	昭和 58 年(1983 年)築
体育館 面積	1,136 m ²	1,918 m ²
グラウンド 面積	約 13,000 m ² ※図上計測値	約 15,700 m ² ※図上計測値
生徒数・教員数	77 人・13 人	126 人・14 人
その他	プール(昭和 41 年築)※統合校として活用する場合、天神池プールを利用予定	格技場 459 m ² (昭和 59 年築) プール(昭和 59 年築)

※1 西脇東中学校を活用する場合、教室数を補うため、少人数授業等で利用する教室を増築します。(増築校舎は、快適性・安全性に配慮しており、仮設建物(例)工事現場のプレハブ建物のイメージ)ではありません。



※上記地図は、両校区の一部を抜き出しているものですが、地図範囲外の町(住吉町等)は、明示がなくとも統合校の対象となります。

⇒既存施設の活用(10年超程度を予定)に当たり、**学習環境の改善、安全性向上**等のため、施設改修を行います。

(2) 既存施設(校舎)の改修について

西脇東中学校(築31年)	黒田庄中学校(築41年)
少人数教室(3室)増築 ^{※1}	校舎・体育館ほか外壁改修
職員室改修(増築)	職員室改修(増築)
校舎外壁・トイレ改修	校舎・体育館屋根改修
外構改修ほか	設備・外構改修ほか
どちらの想定改修例も 約 4.8 億円程度 ^{※2,3} が見込まれます	

※2 老朽化対策(安全性向上)のための改修等範囲で変動します。
 ※3 上記改修は現時点の想定案で確定したものではありません。

2 通学支援について

⇒統合に当たり、**通学の負担を軽減**する措置を講じます。

(1) 通学支援対象者(想定案)^{※4}

学校区の統合により、通学方法に変更が生じる生徒 かつ

- 通学時間の基準・・・概ね1時間超
- 通学距離の基準・・・概ね6キロ超(中学生)

(2) 支援方法(想定案)

- **無料**のスクールバスによる支援
- 通学に使用する公共交通機関の**定期券購入費補助等**

支援対象者ひとりにつきいずれかの支援を行います(自転車通学との併用は可能)。

(3) 通学支援に係る市の財政負担(想定案)

- 通学支援に係るコストはどちらの校舎でも**約 35 百万円/年**

※4 現時点の想定で、上記の通学支援対象となる町及び生徒数(R9年度推計)は、次のとおりです。

活用施設 西脇東中学校	門柳、大伏、西澤、石原、田高、船町、小苗、黒田、前坂	合計 70 名
活用施設 黒田庄中学校	比延町、上比延町、中畑町、住吉町、鹿野町、塚口町、高嶋町、堀町	合計 66 名